

## INFORMATION

# 令和5年度（第62回） 農林水産祭天皇杯等の選賞について

農林水産祭中央審査委員会（会長 伊藤 房雄氏）は令和5年10月11日、令和5年度農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者を選定した。酪農関係では、天皇杯を熊本県球磨郡錦町の株式会社有田牧場（代表 有田 耕一氏）、内閣総理大臣賞を北海道中川郡中川町の丸藤英介氏・丸藤紗織氏が受賞した。

### 1. 農林水産祭の概要

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37（1962）年から実施されている。

令和5年度の実績として、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（令和4年7月から令和5年6月まで）の農林水産祭参加表彰行事（266件）において、農林水産大臣賞を受賞した456点の中から選定された。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与された。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与された。表彰は11月23日

（勤労感謝の日）、明治神宮会館で開催の農林水産祭式典において行われた。

### 2. 酪農関係の受賞者

#### (1) 天皇杯

- 1) 出品財 経営（肉用牛一貫・酪農）  
【地域粗飼料資源フル活用による強靱な肉用牛繁殖・肥育一貫経営】
- 2) 所在地 熊本県球磨郡錦町
- 3) 氏名等 株式会社 有田牧場  
（代表 有田 耕一）
- 4) 表彰行事 令和4年度全国優良畜産経営管理技術発表会

#### 5) 受賞理由

##### (1) 地域の概要

錦町は熊本県南部に位置し、北部は人吉盆地の

令和5年度（第62回）農林水産祭天皇杯受賞者一覧

部門	出品財	受賞者		表彰行事
		住所	氏名等	
農産・蚕糸	産物（茶）	鹿児島県南九州市	有限会社 戸川製茶（代表 戸川 克可）	第76回 全国茶品評会
園 芸	経営（レモン）	広島県尾道市	せとだエコレモングループ（代表 宮本 悟郎）	第52回 日本農業省
畜 産	経営（肉用牛一貫・酪農）	熊本県球磨郡錦町	株式会社 有田牧場（代表 有田 耕一）	令和4年度 全国優良畜産経営管理技術発表会
林 産	技術・ほ場（苗ほ）	北海道北斗市	谷口 淳一	令和4年度全国山林苗畑品評会
水 産	産物（水産加工品）	富山県水見市	株式会社 半七（代表 窪田 博晃）	第33回 全国水産加工品総合品質審査会
多角化経営	経営（ユズ）	高知県安芸郡馬路村	馬路村農業協同組合（代表 北岡 雄一）	第52回 日本農業賞
むらづくり	むらづくり活動	愛媛県西予市	百姓百品グループ（代表 和氣 數男）	第44回 豊かなむらづくり全国表彰事業

一部に含まれる平坦な地形で、南部は九州山地の一角を成す山がちな地形である。錦町の農業産出額は、令和2年度で61億2千万円、うち畜産は65.4%の40億円であり、肉用牛が21.6億円、飼養戸数101戸、飼養頭数6,278頭となっており、町内の家畜市場や食肉処理施設関連産業と併せて中核的な産業となっている。

#### (2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社有田牧場の有田耕一氏は、平成20年に先代から引き継いだ畜産経営（黒毛和種繁殖牛8頭、ホルスタイン種経産牛50頭）を、肉用牛部門を中心に規模拡大（黒毛和種繁殖牛461頭、黒毛和種肥育牛178頭、ホルスタイン種経産牛114頭）するとともに、耕畜連携を中心に自給飼料面積を拡大し、地域の粗飼料資源をフル活用している。その結果、肉用牛部門における飼料のTDN自給率も44.3%と極めて高くなっている。

#### (3) 受賞者の特色

##### ①地域粗飼料資源のフル活用による経営の強靱化

所有地、借地および河川敷に加え、耕種農家69戸と連携し、稲WCS・稲わら・麦わらを集積するなど作付け延べ面積は396ha（1,200筆以上、生産量4,523t）に及び、輸入飼料依存度を低減し、国産飼料自給率を高めた強靱な経営を達成している。

##### ②ICT機器の活用と周到的飼養管理による省力化と子牛・育成牛損耗防止の両立

子牛や肥育牛の健康管理、繁殖牛の発情・分娩監視などに最適なICT機器を活用するとともに、低温殺菌ホルスタイン種初乳給与、超音波式加湿器の利用、寒冷期の温水給与、子牛用授乳マシン活用などで省力化と損耗防止を両立している。

##### ③女性の活躍

従業員8名のうち4名が女性で、哺乳部門のリーダー等の役割を担い、子牛等の的確な飼養管理による事故率の低減化を通じて経営に大きく貢献している。

#### (4) 普及性と今後の発展方向

有田氏は農協等の役員や指導農業士として実習生や研修生の受入等を積極的に行うリーダーであり、地域内連携による飼料生産拡大やICT機器の有効活用は普及が期待される。地域の高齢化が進む中、今後とも、ほ場管理の担い手として地域粗飼料資源のフル活用に挑み、肉用牛部門の経営強靱化を図ることは全国の模範となる。

#### (2) 内閣総理大臣賞

##### 1) 出品財 技術・ほ場（永年牧草）

【牧草を最大限に利用し外部依存度の低下を追求した低投入型放牧酪農】

2) 所在地 北海道中川郡中川町

3) 氏名等 丸藤 英介・丸藤 紗織

4) 表彰行事 第9回全国自給飼料生産コンクール

5) 受賞理由

#### (1) 地域の概要

中川町は、北海道の北部に位置し、山岳部を除く平地は一部の泥炭地を除いて肥沃であり、畑作、畜産、林業を主な産業とする自然豊かな町である。中川町の農業産出額は、令和3年度で13億6千万円、うち畜産は69.8%の9億5千万円であり、乳用牛が8億9千万円（生乳7億6千万円）とその大半をしめている酪農が盛んな地域である。

#### (2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

丸藤氏は平成12年に北海道へ移住後、平成20年に中川町の離農酪農家跡へ新規就農した。現在は乳牛70頭の家畜経営で、成牛42頭は放牧を中心に濃厚飼料給与量を極力抑えた飼養体系であり、飼料のTDN自給率80%を達成している。

#### (3) 受賞者の特色

##### ①積極的な草地改良による牧草の高品質化

ローインプットで利益を確保するため、牛の主食となる草の高品質化を目指し草地改良に力を入れている。所有する草地の土壌条件が悪く生産性が低いため、耕起による更新、暗渠の整備、追播による簡易更新を行い、放牧用草地、採草地、放牧・採草兼用地の植生改善をデータに基づき積極的に進めている。

##### ②外部依存度の低下による持続性の高い酪農経営

年間を通じて牧草からの生乳生産量を最大にするため、早生、中生、晩性を計画的に作付け、適期で収穫している。播種量を増やすことで雑草の抑制や牧草の死滅を低減している。放牧地および兼用地では除草剤や化学肥料の使用を中止して有機的管理に移行し、令和6年度の有機JAS認証（飼料）の取得を目指している。

##### ③女性の活躍

夫妻は家族経営協定を結んでおり、夫の英介氏は草地・飼養管理、妻の紗織氏は搾乳作業という分業体制としている。紗織氏が担当しているのは時間の決まった朝・夕の搾乳のみであるが、投資など重要な判断を伴う決定は夫婦で相談し行っている。

#### (4) 普及性と今後の発展方向

英介氏は新規就農委員を務め、研修生受入や就農後フォローも積極的に行う地域のリーダーであり、生態系調和と持続性重視の経営姿勢は、これからの酪農経営の1つの展開方向を示している。また、牧草新品種の導入、牧草由来生乳生産量の増大、農薬・化学肥料の使用中止など、飼料価格高騰下において外部依存度を低減した持続的な酪農経営モデルを提示している。